

第20回 A R F 閣僚会合議長声明の骨子

パラ 1 : 日程 (7 月 2 日) 及び議長 (議長国ブルネイ : モハメッド・ボルキア外務貿易大臣)

パラ 2 : 全ての A R F 参加国の外相及び代理、A S E A N 事務局長が出席。

パラ 3 : A R F 2 0 周年記念冊子の刊行。

パラ 4 : アジア太平洋地域の平和、安全及び安定を促進する主たるフォーラムとしての A R F の重要性を再確認。A R F における A S E A N 中心性の支持。地域の安全保障枠組みにおける A R F の多大な貢献の確認。

パラ 5 : すべての参加国にとって適切なペースでの、A R F の次のステージへの進展に向けた各国の継続的協力・貢献の奨励。ハノイ実行計画等の引き続きの実施。予防外交ワークプランの重要性の確認と信頼醸成の継続。

地域・国際情勢に関する議論

パラ 6 : 本年 4 月の A S E A N 首脳会合の成果に留意。

パラ 7 : A R F の前進を歓迎、さらなる予防外交の取組を奨励。予防外交の訓練のための取組を歓迎。A R F は、平和的解決及び相互信頼の原則に基づき、対話と協力を通じ地域の安全保障上の課題に取り組むプラットフォームとして活用されるべきことを改めて確認。

パラ 8 : 他の地域枠組みとの連携の重要性。A S E A N 国防相会議 (A D M M) 関連会合の開催についての歓迎及び期待。

パラ 9 : 東南アジア友好協力条約 (T A C) の重要性を再確認。ノルウェーの T A C 加入を歓迎。

パラ 1 0 : **北朝鮮情勢** (全訳) : 閣僚は、朝鮮半島の平和、安全と安定の重要性を強調した。大多数の閣僚は、北朝鮮に対し、すべての関連国連安保理決議及び 2 0 0 5 年の六者会合共同声明の下でのコミットメントに対する義務を遵守するよう求めた。この目的のため、閣僚は、平和的な形で朝鮮半島の非核化を実現するためのすべての努力に対する支援を重ねて表明した。大多数の閣僚は、すべての関連国連安保理決議を全面的に履行するとのコミットメントを再確認した。閣僚は、国際社会の人道上の懸念事項に対処する重要性を強調した。閣僚は更に、関係者間における信義と信頼の雰囲気の醸成につながるような平和的な対話に取り組むすべての可能性を追求することを奨励した。

パラ 1 1 : 南シナ海情勢 (全訳) : 閣僚は、南シナ海の平和と安定を維持する重要性を強調し、南シナ海に関する六項目原則についての A S E A N 声明に留意した。閣僚は、1 9 8 2 年の国連海洋法条約 (U N C L O S) を含む普遍的に認められた国際法の原則に従い、直接関係する主権国家による友好的協議と交渉を通じ平和的に紛争を解決する重要性を強調した。閣僚は、A S E A N と中国の間の、南シナ海に関する行動宣言 (D O C) を、D O C 履行のガイドラインを含めて、完全かつ効果的に履行し、南シナ海における行動規範 (C O C) のコンセンサスに基づく採択に向けて作業するとの共同コミットメントを歓迎した。この点に関し、閣僚は、A S E A N と中国の間で相互信頼、信任と協力のための協議及び対話が続けられていること及び 2 0 1 3 年 5 月 2 9 日にタイのバンコクにおいて D O C 履行に関する第 8 回 A S E A N ・中国共同作業部会が開催されたことを評価した。閣僚は、D O C 履行に関する第 6 回 A S E A N ・中国高級事務レベル会合及び D O C 履行に関する第 9 回共同作業部会が 2 0 1 3 年 9 月に中国において開催される予定であること、また、これらの会合において全ての国が行動規範に関する公式協議を行うことに勇気づけられた。閣僚は、そのような協議に支援を提供するため、賢人・専門家会合 (E P E G) 及び／もしくは、その他のメカニズムを設置するためのステップがとられることに留意した。

パラ 1 2 : 不拡散、軍縮及び原子力の平和的利用 : 不拡散、軍縮及び原子力の平和的利用における国際的な協調的取組を支持。東南アジア地域を、非核兵器地帯及びその他の全ての大量破壊兵器のない地域として維持することの重要性を改めて強調、東南アジア非核地帯 (S E A N W F Z) 条約の強化及び履行に関する行動計画の A S E A N による採択を歓迎。イランの核問題に関する E U 3 + 3 の努力に留意。次回 A R F 不拡散・軍縮会期間会合 (I S M) 開催国である日本のイニシアティブに留意。

パラ 1 3 : パキスタン情勢 : 直近の選挙における民主主義の勝利を歓迎。新政権による地域の平和と安定の達成を期待。

パラ 1 4 : 非伝統的安全保障 : 自然災害、テロ、薬物取引、誘拐、人身取引、サイバー安全保障及び海賊などの非伝統的安全保障について議論。情報共有と能力構築を含む各国の協力を歓迎。新たな分野である宇宙セキュリティへの参加国の関心に留意。

パラ 1 5 : 自然災害 : 世界各地での自然災害での被害に弔意。A R F の枠組みでの民軍連携による、H A / D R 分野での協力促進を推奨。タイ及び韓国が共催した A R F - D i R E x 2 0 1 3 に貢献した各国の支援を評価。

パラ 1 6 : シリア情勢 : 数カ国がシリア情勢に深刻な懸念を表明。暴力的行動の即時停止と 2 0 1 2 年に開催されたジュネーブ会合における声明の完全履行による政治的解決を呼びかけ。

パラ 1 7 : フィジー情勢 : 数カ国が 2 0 1 4 年の選挙実施に向けた最近の取組を歓迎。

これまでの会期間活動のレビュー

パラ 18：高級事務レベル会合（ARF・SOM）及び信頼醸成措置・予防外交に関する事務レベル会合（ARF・ISG）の活動のレビュー。

パラ 19：ARFに対する防衛・国防当局からの貢献を歓迎、ADMMプラスとのシナジーを引き続き追求。第19回ARF閣僚会合で留意されたシナジー向上に関するディスカッションペーパーを再確認。国防当局間会合（DOD）に言及。

パラ 20：第20期（2012.7～2013.6）に開催された各ISMの成果を歓迎。

パラ 21：ADMMプラス専門家会合（EWG）の共同議長国のARF－ISMへの招聘を歓迎。

パラ 22：タイと韓国の共催によるARF－DiREx 2013の開催を歓迎。次回DiRExを2015年に開催。非ASEAN共催国に中国が立候補したことを歓迎、ASEAN国からの共催国立候補を慫慂。

パラ 23：第20期（2012.7～2013.6）に開催された各種ワークショップ及びセミナーの成果に留意。

パラ 24：バイオ事案に関する準備及び対策に関する事例集に関し言及。

次期会期間（2012.7～2013.6）の活動予定

パラ 25：予防外交への展開に向けたコンセプトペーパーを、ARF参加国が適切に予防外交へ進むためのガイドラインとして採択。

パラ 26：次期会期間のARF・ISG及びARF－DODをミャンマーとEUが共催することを歓迎。ISG会合の第1回目は2013年後半に、第2回目は2014年前半にそれぞれ開催予定。

パラ 27：災害救援、テロ対策・国境を越える犯罪対策、不拡散・軍縮、海上安全保障の各ISMについて、各々の次期共同議長国の立候補を歓迎。日本は災害救援と不拡散・軍縮において共同議長国。

パラ 28：ARFテロ対策・国境を越える犯罪対策ワークプランの次期会期での改訂について合意。

パラ 29：来期のARF活動予定の承認。

ARFの将来的方向

パラ 3 0 : 次期議長国 : 次期 A R F 議長国 ミャンマー、副議長国 マレーシア を歓迎。

パラ 3 1 : ハノイ行動計画 : ハノイ行動計画及びその実施の重要性を再確認。A R F がより行動主体的なフォーラムとなり、また非伝統的安全保障分野における地域の多国間協力を主導する枠組みとなることの必要性を強調。

パラ 3 2 : サイバー安全保障 : A R F がサイバー安全保障に関する協力の推進に適するフォーラムであると認識。A R F サイバー安全保障ワークプランの策定に向けた進捗に留意し、さらなる議論を事務レベルで行うことを指示。

パラ 3 3 : サイバー安全保障 : サイバー安全保障に係る信頼醸成措置の向上に向けた専門家会合の開催提案に留意、さらなる議論を事務レベルで行うことを指示。

パラ 3 4 : E E P : E E P の活動的な役割を歓迎し、全般的な A R F の展開に関する評価及び今後に向けた提言、特に予防外交のための取組についての提言を行うよう指示。E E P が I S G 会合に参加すべきとの提案に留意。E U が次回 A R F - E E P 会合を開催することを歓迎。

パラ 3 5 : 安保年次概観 : 2 0 1 3 年 A R F 年次安全保障概観を歓迎。2 0 1 3 前半に A S E A N 安全保障概観が出版される予定であることに改めて留意。

パラ 3 6 : A R F ユニット : 同ユニットの活動を称賛。A R F の活動及び今後の業務増加に鑑み、A S E A N 事務局の強化策の一部として、同ユニットの能力及び人材強化の必要性を再確認。

パラ 3 7 : トラック 2 及び他の地域・国際機関、会議の活用 : トラック 1 及びトラック 2 の間の連携、及び A R F と他の地域・国際機関、会議との間における連携の重要性を再確認。